

万が一火災が発生したら

- ① 火花や煙が激しく噴出している場合は、近寄らない
- ② 火花や煙の勢いが収まったら、大量の水や消火器で消火する
- ③ 消火後、安全に配慮し可能であれば水没させる



素手で触るのは
やめよう！

119番通報は
安全な場所から
通報しよう！



Point 1

大量の水をかける



Point 2

水没させる



誤った廃棄方法でも火災が・・・！

住宅の中だけではなく、誤った廃棄方法によるごみ処理中の火災も急増しています。不要品を処分する際は製品の取扱い説明書をよく確認した上で、お住まいの自治体の廃棄方法に従い廃棄してください。



可燃ごみ回収中に、ごみ袋から煙！！



ごみ袋からバッテリーが！？

問合せ先

東京消防庁 防災部 防災安全課 電話番号 03-3212-2111 内線4196

※ 本リーフレットにおける火災統計は、東京消防庁管内の数値を集計しています。

令和7年7月発行



STOP！

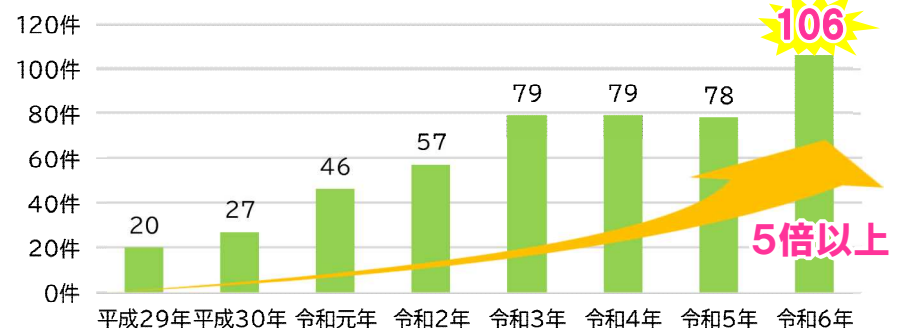
STOP！住宅防火シリーズ⑦ 火災から大切な命を守ろう

近年、急増！取扱いに要注意

リチウムイオン電池関連火災とは、リチウムイオン電池を搭載した製品(差込みプラグ及び器具コードを除く)から出火した火災のことをいいます。

- リチウムイオン電池に起因する火災が、近年急増しています。令和6年中は、106件発生し、過去最多となっています。
- 取扱い方法をよく確認し、異常を感じた場合は、すぐに使用を中止しましょう。

住宅火災におけるリチウムイオン電池関連火災件数
(令和6年は速報値)



106
5倍以上

リチウムイオン電池
関連火災

東京消防庁

身近にあるリチウムイオン電池搭載製品

住宅火災における
製品用途別発生状況(令和6年中速報値)

モバイルバッテリー	35件
携帯電話機	10件
コードレス掃除機	9件
ポータブル電源	8件
電動アシスト付自転車	6件
タブレット	5件
ワイヤレスイヤホン	5件
ノートパソコン	3件
電動工具	3件
ファン付き作業着等バッテリー	2件
その他	20件
計	106件

発生が1件のものは「その他」に分類し、携帯扇風機、コードレスヘアアイロン、ビデオカメラ、音楽プレイヤーなどが含まれています。



⚠️ こんなときは危険 ⚠️ 今すぐチェック！

- ☐ 熱のこもりやすい場所で使用している
- ☐ 膨らみ、変形している
- ☐ 過去に落下させたことがある
- ☐ 充電中や使用中に発熱することがある
- ☐ 充電できないなどの不具合がある

一つでも当てはまる場合は火災の危険が・・・！

【事例1】「充電中のモバイルバッテリーから出火した火災」

突然、住宅用火災警報器が鳴動し部屋を確認したところ、布団の上で充電していたモバイルバッテリーから火が出ているのを発見した。

【事例2】「外部からの衝撃により出火した火災」

テーブルに置いてあったスマートフォンに肘が当たり、床に落下した直後、出火した。



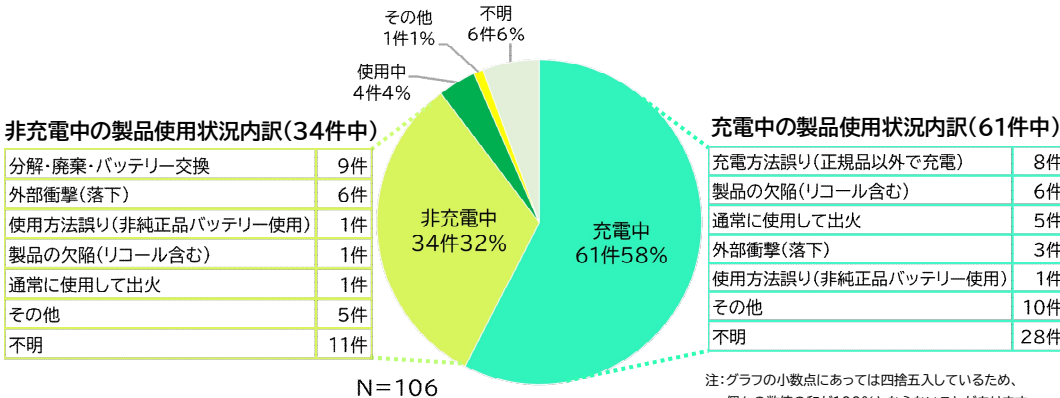
充電中に多く発生！～外部衝撃にも要注意！～

リチウムイオン電池関連火災(令和6年中)のうち、約6割が充電中に発生しています。
最も多いのは「充電方法誤り(正規品以外で充電)」です。

非充電中では、「分解・廃棄・バッテリー交換」により多く発生しています。

また、「外部衝撃(落下)」によるものは、充電の有無にかかわらず発生しています。

住宅火災における出火時の状況内訳(令和6年中速報値)



火災を防ぐ6つのポイント

- 製品に衝撃を与えない、むやみに分解しない
- 整理整頓された場所で充電する
- 製造事業者が指定する充電器やバッテリーを使用する
- 膨張、充電できない、バッテリーの減りが早くなった、充電中に熱くなるなど異常がある場合は使用をやめ、製造業者や販売店に相談する
- 熱のこもりやすい場所での使用は控える
- 万が一の被害に備え不燃性のケースなどに収納する

住宅用火災警報器を備えましょう

住宅用火災警報器は、煙や熱を感知して火災が発生したことをいち早く知らせ、素早い避難や有効な初期消火、早期通報に繋げることができます。適切に設置・維持管理を行い、大切な生命・財産を守りましょう。

